

映画のメティエ 空想の映画史をスクリーンに戻す試み

プログラム構成＝筒井武文

..... 2025年6月30日(月)–7月5日(土)

映画監督筒井武文は長年にわたり映画批評を執筆してきた。劇映画、ドキュメンタリー映画、実験映画などの多様なジャンルに及び、古典から現代にいたる映画表現の広大な領域を縦走・横断するその著述は、日本の映画批評において独自の地位を築いてきた。このたび、膨大な原稿から精選された映画論が、『映画のメティエ 欧米篇』『映画メティエ 日本篇』（森話社）の2冊にまとまって刊行された。本企画は、その出版を記念し、筒井監督のセレクションによるプログラム構成で実施するものである。

6月30日(月) 暴走する機械、あるいは映画vs.アニメーション

16:00–..... チャーリー・パワーズ セレクション 1 [計101分]
『とても短い昼食』『オトボケ脱走兵』『たまご割れすぎ問題』『全自動レストラン』『ほらふき倶楽部』『怪人現る』
+トーク1 筒井武文 [30分]

19:00–..... チャーリー・パワーズ セレクション 2 [計61分]
『生命の機械』『バナナだらけ』『イツ・ア・バード』

7月1日(火) サイレント映画の極北、なぜ私は金縛りにあってしまったのか

15:10–..... 『当たり狂言』[84分]
17:00–..... 『岡惚れハリー』[60分] +トーク2 筒井武文 [30分]
19:00–..... 『当たり狂言』[84分]

7月2日(水) 「笑」の共振、はたして瀬川はルビッチを見たか

15:00–..... 『乾杯!ごきげん野郎』[91分]
17:00–..... 『牡蠣の王女』[58分] +トーク3 筒井武文 [30分]
19:00–..... 『乾杯!ごきげん野郎』[91分]

7月3日(木) につぼん不条理対決、あるいは私のふたりの師匠

14:30–..... 『満願旅行』[94分]
16:30–..... 『荒野のダッチワイフ』[85分] +トーク4 筒井武文 [30分]
19:00–..... 『満願旅行』[94分]

7月4日(金) アナタハン島の女王は誰か、あるいは映画の創造力

15:30–..... 『アナタハン島の真相はこれだ!!』[53分] +トーク5 筒井武文 [30分]
17:30–..... 『アナタハン』[90分]
アーカイブ映像「主演女優 根岸明美『アナタハン』を語る」[105分]

7月5日(土) 1980年代に映画を撮り始めること、もしくは時代から迷うこと

13:20–..... 『レディメイド』[60分]『はなされるGANG』[85分]
16:20–..... 『学習図鑑』[50分]『アリス イン ワンダーランド』[14分]
18:00–..... 対談 諏訪敦彦(映画監督)×筒井武文 [60分]
『ゆめこの大冒険』(染色サウンド版) [67分]

●各日最初のプログラム冒頭で筒井武文監督による作品紹介(約5分)があります。

入場料

[1回券] 一般1,500円/シニア・学生1,200円/アテネ・フランセ文化センター会員1,000円

[1日券] 一般・学生・シニア共通2,000円

[全作品鑑賞券] 8,000円(50枚限定)

先着順/入替制

チケットは当日初回の30分前から当日上映分を販売いたします。

会場＆お問合せ

アテネ・フランセ文化センター

東京都千代田区神田駿河台2-11 アテネ・フランセ4階 | JR・地下鉄 御茶ノ水・水道橋駅より徒歩7分

TEL.03-3291-4339 (13:00-20:00) <http://www.athence.net/culturalcenter/> infor@athence.net

映画のメティエ 欧米篇 2025年3月刊

映画のメティエ 日本篇 2025年7月刊【**会場にて先行販売!**】

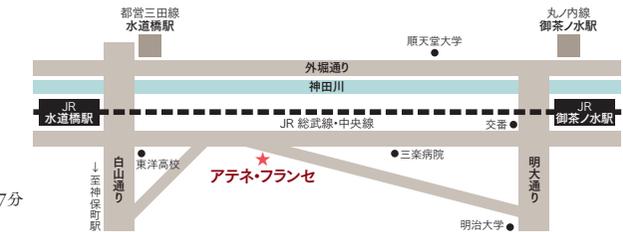
筒井武文 著 | 森話社 | 欧米篇3,800円+税 | 日本篇3,600円+税



映画の誕生から映画史の発展を、あくなき探求と取材を通して縦横無尽に展開してみせる、おどろくべき映画論集だ。とびぬけた映画狂であり映画家としての地道な活躍も注目される筒井武文氏ならではの執拗なまでに熱っぽく狂おしい多彩な映画論が躍動する。大いに学びつつ大いに刺激されること請合いの画期的な映画授業である。——— 山田宏一
古典から現代へ。その緩やかな展開は、日本映画史と括ることが可能だろうが、驚くべきは、個々の作品に注がれる筒井武文さんの繊細きわまりない眼差しである。そこでは、すでに見知っているはずの映画が、新たな光を放って立ち上がってくるのだ。ただ、作品の選択には筒井さん独特の強弱がある。それが従来の日本映画史の盲点を突く。本書には、そんなスリリングな展開が随所にある。心して読むべし! ——— 上野昂志

筒井武文(ついついたけふみ)

1957年三重県生まれ。東京造形大学在学中に習作『6と9』(1981)を手掛けた後、長篇第一作『レディメイド』(1982)を発表。フリーの助監督、フィルム編集者を経て、独立後、自主制作映画『ゆめこの大冒険』(1986)を3年がかりで完成させ劇場公開。劇団「遊●機械/全自動シアター」の世界を映像化した『学習図鑑』(1987)や3D作品『アリス イン ワンダーランド』(1988)を監督するとともに、TV、記録映画、企業CMなど幅広く演出。『おかえり』(1996、篠崎誠監督)では製作と編集を、『どこまでもいこう』(1999、塩田明彦監督)では編集を担当した。また、イメージフォーラム、映画美学校、東京藝術大学大学院映像研究科などで後進の育成につとめたかわら、映画批評や、海外含む映画人へのインタビューも多数手がけてきた。今世紀に入ってから監督作(長篇)に、『オーバードライヴ』(2004)、『孤独な惑星』(2010)、『ホテル・ニュームーン』(2019、日本・イラン合作)の劇映画に転じて、『パッハの肖像 ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2009より』(2010)、『映像の発見＝松本俊夫の時代』(2015)のドキュメンタリー映画がある。2025年には、10年前に監督した劇映画『自由なファンシィ』が一般公開されたのにあわせて、初の著書『映画のメティエ 欧米篇』(森話社)と編著『声(ボリフォニー)の映画史 東京藝術大学大学院映像研究科講義録』(東京藝術大学出版会)が上梓され、『映画のメティエ 日本篇』(森話社)もつづいて刊行される。



2025年6月30日(月)–7月5日(土)

アテネ・フランセ文化センター(御茶ノ水)

1..... 6月30日(月)

暴走する機械、あるいは映画vs.アニメーション

チャーリー・パワーズ監督・出演作品セレクション

2..... 7月1日(火)

サイレント映画の極北、なぜ私は金縛りにあってしまったのか

『当たり狂言』『岡惚れハリー』

3..... 7月2日(水)

「笑」の共振、はたして瀬川はルビッチを見たか

『牡蠣の王女』『乾杯!ごきげん野郎』

4..... 7月3日(木)

につぼん不条理対決、あるいは私のふたりの師匠

『荒野のダッチワイフ』『満願旅行』

5..... 7月4日(金)

アナタハン島の女王は誰か、あるいは映画の創造力

『アナタハン島の真相はこれだ!!』『アナタハン』ほか

6..... 7月5日(土)

1980年代に映画を撮り始めること、もしくは時代から迷うこと

『レディメイド』『はなされるGANG』『学習図鑑』『アリス イン ワンダーランド』『ゆめこの大冒険』

「映画のメティエ」二部作(欧米篇・日本篇)の出版を記念して上映会を開いていただけることになった。もちろん、この二冊で扱った映画をすべて上映することなど不可能である。それで、セレクトした基準は、三点ある。一点は、現在上映することが困難な作品であること。たとえば、チャーリー・パワーズ。この天才の作品は、神戸映画資料館によって、三年前に本格的な紹介がおこなわれたが、すでに配給権が切れていて、今回特別に上映権をとったものである。とりわけ、「セレクション2」の三作品は東京での初公開となる。二点は、私の映画体験史として、特別の思いがあるもの。ハリー・ラングドン『岡惚れハリー』、『アランドワン』『当たり狂言』は、一九二〇年代のサイレント作品だが、欧米篇序文で書いたように、映画史の奥深さを知らしめてくれた。三点は、五〇年代映画研究会の協力を得て、アテネ・フランセ文化センターで九〇年代に上映したもの。瀬川昌治、大和屋竺、それにスタンバーグ『アナタハン』がそうだが、根岸明美さんのトークを同じスクリーンに投影することで、三三年の隔たりを超えた熱気を再現できるか。以上、私の映画体験に欠かさない作品を見ていただいた上で、観ることから撮ることに立場を変えた時代を語りたい。その時代で観れる・観せられる作品と、自分で探し回ること観た作品の間に、自己の立脚点があると思うからである。

筒井武文

ATHÉNÉE FRANÇAIS
CULTURAL CENTER
アテネ・フランセ文化センター

映画美学校
THE FILM SCHOOL OF TOKYO

国立映画アーカイブ

神戸映画資料館
Kobe Film Archive

主催.....アテネ・フランセ文化センター、映画美学校
協力.....国立映画アーカイブ、Friedrich-Wilhelm-Murnau-Stiftung、神戸映画資料館、森話社、一般社団法人PFF
作品提供.....松竹株式会社、東映株式会社、国映株式会社

特集上映

映画のメティエ

空想の映画史をスクリーンに戻す試み プログラム構成＝筒井武文

1 6月30日(月)

暴走する機械、あるいは映画vs.アニメーション

▶**チャーリー・パワーズ セレクション 1** | 計101分

とても短い昼食 | **The Extra-Quick Lunch**

1918年 | 6分 | サイレント | DCP
 監督：チャーリー・パワーズ、ブッド・フィッシャー

オトボケ脱走兵 | **A.W.O.L. or All Wrong Old Laddiebuck**

1918年 | 6分 | サイレント | DCP
 監督：チャーリー・パワーズ

たまご割れすぎ問題 | **Egged On**

1926年 | 23分 | サイレント | DCP

監督：チャーリー・パワーズ、ハロルド・L・ミュラー、テッド・シアーズ | 出演：チャーリー・パワーズ

全自動レストラン
He Done His Best

1926年 | 23分 | サイレント | DCP

監督：チャーリー・パワーズ、ハロルド・L・ミュラー | 出演：チャーリー・パワーズ

ほらぶき倶楽部
Now You Tell One

1926年 | 21分 | サイレント | DCP

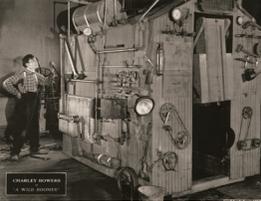
監督：チャーリー・パワーズ、ハロルド・L・ミュラー | 出演：チャーリー・パワーズ

怪人現る | **There It Is**

1928年 | 22分 | サイレント | DCP

監督：チャーリー・パワーズ、ハロルド・L・ミュラー | 出演：チャーリー・パワーズ

チャーリー・パワーズ セレクション 2 | 計61分



映画史から忘れられ、古物商の売ったフィルムが60年代に再発見されたことで甦ったチャーリー・パワーズ！セレクション1では、パワーズの手描きアニメーションから、実写のコメディまで。キートンを模倣したキャラクターなのだが、大半の作品で発明家を演じる。最初に発明するのは、「割れない卵」をつくり出す奇想天外なマシンだが、人間の思惑を超えて暴走していく。実写の機械の作動に、コマ撮りアニメーション技法（パワーズ・プロセス）が取り入れられ、究極の機械文明論が展開されていく。セレクション2では、パワーズのマシンの最高傑作『生命の機械』と『バナナだらけ』が登場する。前者は文字通り生命を生み出す。後者は滑らないバナナの皮の発明に取り組む。その実験過程が細かく描かれるのが貴重。『イツツ・ア・バード』は、トーキー第一作であり、パワーズ最後の出演作。金属を食べる鳥を探し、世界を旅する。

2 7月1日(火)

サイレント映画の極北、なぜ私は金縛りにあってしまったのか

当たり狂言 | **Stage Struck**

1925年 | 84分 | サイレント | デジタル

監督：アラン・ドワン | 脚本：フランク・R・アダムス、フォレスト・ハルセイ、シルヴィア・ラヴァレ | 出演：グロリア・スワンソン、ローレンス・グレイ、ゲルトルード・アストール

絢爛たる衣裳で階段を降りてくるサロメ、驚くことに二色式テクニカラーで撮られている。それは川辺の料理屋でウェイトレスをしている女優志望の娘の夢だった。モノクロに戻った画面は、娘を演じるグロリア・スワンソンの潑刺とした魅惑を描き出す。そこに、蒸気船が停泊し、恋敵となる女優が登場して…。アラン・ドワンの大傑作。

岡惚れハリー | **Three's A Crowd**

1927年 | 60分 | サイレント | デジタル

監督：ハリー・ラングドン | 脚本：ロバート・エディ、ハリー・ラングドン、ジェームス・ラングドン | 出演：ハリー・ラングドン、グラディス・マッコネー、コルネリウス・キープ
フランク・キャブラと組んでいたハリー・ラングドンが自ら監督を兼ねて主演したコメディだが、これほど悲しいコメディが存在しただろうか。雪のなか行き倒れた若い妊婦を助けたハリーは、献身的に世話をする。そこに、妻を追って夫が現れ、彼女をめぐってリング上でのボクシング対決になる。圧倒的な悪夢の表現に驚嘆させられる。

3 7月2日(水)

「笑」の共振、はたして瀬川はルビッチを見たか

牡蠣の女王 | **Die Austerprinzessin | The Oyster Princess**

1919年 | 58分 | サイレント | デジタル

監督：エルンスト・ルビッチ | 脚本：エルンスト・ルビッチ、ハンス・クレリ | 撮影：テオドル・スバルグール | 出演：オシー・オスヴァルダ、ハリー・リートケ



アメリカ時代には欧州の架空の国を舞台にすることが多かったルビッチだが、ドイツ時代の本作は逆にアメリカの大富豪一族を容赦無く描いてみせる。牡蠣の王の口述筆記のシーンでは、取り巻く葉巻係、コヒー係、ナプキン係、ブラシ係が次々に口や髪の世話をしていく。その娘の政略結婚の話だが、風刺を超えた面白さが渦巻く。

乾杯!ごきげん野郎

1961年 | 91分 | 35mm

監督：瀬川昌治 | 脚本：井出雅人 | 撮影：田中義信 | 出演：梅宮辰夫、今井俊二、南広、三田佳子、榎本健一

プロを夢見て、九州から上京する梅宮辰夫以下コーラスグループ四人組。売り込み作戦が開始される。ターゲットはエノケン演じる大物プロモーター。祝賀会場から拉致し接待するシーンの可笑しきたるや。瀬川昌治がチャップリンやルビッチから受け継いだ映画魂が、複雑な生合成を駆使した四人組が増殖するミュージカル場面に結実する。



※外国映画はすべて日本語字幕付き（ただし『アナタハン』の英語発声部分は日本語字幕なし）

4 7月3日(木)

にっぽん不条理対決、あるいは私のふたりの師匠



©国映株式会社

1967年 | 85分 | デジタル
 監督・脚本：大和屋竺 | 音楽：山下洋輔 | 出演：辰巳典子、港雄一、磨赤児、大久保鷹、山本昌平
 大和屋竺が企むのは、時間の消滅である。殺し屋とは、人の時間を止めるのが仕事だ。抱いていた女が人形に姿容する。対決の時間が引き延ばされ、不意に襲ってくる。荒野と都会の一室が通底し、空間の距離が拡大したかと思えば、時間は回帰を繰り返す。大和屋が残した4本の劇映画はどれも必見だが、やりたいことをやり切った本作をまず！

満願旅行 1970年 | 94分 | 35mm

監督：瀬川昌治 | 原作・脚本：舟橋和郎 | 撮影：丸山恵司 | 出演：フランキー堺、団令子、香山美子、森田健作、ピンキーとキラーズ



©1970松竹株式会社

日本のプログラム・ピクチャーでこれほど過激な世界を描いた例は他にない。フランキー堺演じる車掌や駅員は、なぜか女性に誘惑されまくる。それが夢と分かった瞬間、映画館は爆笑の渦となるのだが、それは本当に夢なのか。コメディが一転して、恐怖映画となる。シリーズ11作中、『快感旅行』と共に究極の悪夢を体験できる。

5 7月4日(金)

アナタハン島の女王は誰か、あるいは映画の創造力

アナタハン島の真相はこれだ!!

1953年 | 53分 | 35mm

監督：吉田とし子 | 出演：比嘉和子

スタンバーグの『アナタハン』の公開の直前に、アナタハン島で32人の男性と日本の敗戦を知らずに過ごした現実の「アナタハン島の女王蜂」比嘉和子を出演させてつくった際物映画。製作の吉田とし子が監督でクレジットされているが、実際の監督は別にいるとも。ともあれ、1953年の公開順に、アナタハン事件を見ていただく。



スタンバーグの最後の作品は日本映画である。それも、彼自身の映画人生を締め括る孤高の美を放つ。南海の孤島で男たちに囲まれて過ごす女王蜂ケイコに、日劇ダンシングチームで見つけた根岸明美を抜擢。スタンバーグは、拳銃を持つ王の出現によるケイコと男の関係の変化を見つめる。島に舞い落ちる紙の爆弾に、スタンバーグ映画の刻印が押される。
 ●国立映画アーカイブ所蔵

アーカイブ映像 主演女優 根岸明美『アナタハン』を語る

1992年 | 105分 聞き手：筒井武文

1992年に当センターでの『アナタハン』上映会ゲストで来館された根岸明美さんのトーク映像。根岸さんは公開から39年後のこの会ではじめて完成作品をご覧になった。当日のプリントがアメリカ公開版だったので、吹き替えのヌード・シーンに驚かれ、率直な物言いが観客の爆笑を誘う。スタンバーグとの交友が語られる貴重な記録となった。



6 7月5日(土)

1980年代に映画を撮り始めること、もしくは時代から迷うこと

レディメイド

1982年 | 60分 | 16mm

監督：筒井武文 | 脚本・撮影：高瀬伸一 | 出演：小野寺里美、西野公平、大童一心、鈴野志紋、鈴野麻衣、筒井紀美子
 遊園地という出来合いの迷路をさまよう三組のカップルと一組の子供。彼らの錯綜した行き違いは、オーソン・ウェルズの記憶を留める「鏡の間」で頂点に達するが、巧妙な「つなぎ間違い」によりアラン・レネの時空へと漂い、いくつかの平手打ちを経て、魔法のようにハッピーエンドへと解きほぐされる。長篇第一作。

はなされるGANG

1985年 | 85分 | DCP

監督・撮影：諏訪敦彦 | 出演：加村隆幸、伊藤理恵

東京造形大学の3年次の課題として、ゴダールの『気狂いピエロ』の影響下に撮られた8ミリ日記映画。実際に、1日に1日分のシーンを撮っていった。実際の恋人だった二人を使い、逃走劇としてのフィクションを構築と同時に解体していく。浅草花やしきの観覧車の場面をはじめ、撮影を兼ねる諏訪の映画的感性が横溢した傑作。

学習図鑑

1987年 | 50分 | 16mm

監督：筒井武文 | 撮影：宮武嘉昭 | 音楽：太田恵資 | 出演：高泉淳子、白井晃、篠崎はるく、遊●機械/全自動シアター
 即興的な集団創作で知られる劇団、遊●機械/全自動シアターとともに、映画における演劇性とは何かを追求した実験的試みにして娯楽作。マルクス兄弟のナンセンスが炸裂する秋刀魚の手術シーンや、たった一枚のスカーフによって一組のカップルの数十年間を表現してしまう叙情的なメキシコ料理屋のシーンが圧巻の革新的傑作。

アリス イン ワンダーランド

1988年 | 14分 | 35mm | 2D上映

監督・脚本：筒井武文 | 撮影：宮武嘉昭 | 音楽：竹間淳 | 出演：ローレン・ディーン、マリアマ・マコルスキー、サム・サンダー、すずきやすし



日本から一步も出ずにルイス・キャロルの作品世界を忠実に再現した3D映画（今回は2Dでの上映）。アリスが裁判にかけられる場面で画面を横切るトランプの乱舞はオプチカル処理

され（CGではない）、筒井の狂気の映画愛をうかがわせる。映画史上、数ある「アリス」映画の中でも演出の厳格さではトップクラス。映画のアルチザンとしての手腕が光る幻の逸品。

ゆめこの大冒険（染色サウンド版）

1986/2011年 | 67分 | 16mm

監督・脚本：筒井武文 | 撮影：宮武嘉昭、熊谷朋之 | 出演：かとうゆめこ、すずきやすし、宮原清、にわ望、高橋孝英、沖山美紀、チーコ



筒井流「ゲームの規則」。怪盗ゆめことマッド・サイエンティストが乗る気球は、メリエス的な世界一周の旅へと出発し、二人の熱いキスで北極熊を驚かせ、巴里の夜景へと私たちを誘う。さらに偽りの遠近法の中の追跡劇は、映画が作り物の真実であることを指し示す。無声映画への深い愛と該博な知識に裏づけされた初期代表作。

●作品解説は、筒井監督作品以外すべて、筒井武文執筆